広 島 県 感 染 症 発 生 動 向 月 報

［広 島 県 感 染 症 予 防 研 究 調 査 会］

（ 平成25年3月解析分 ）

1 疾患別定点情報

（1） 定点把握（週報）五類感染症

平成25年2月分(平成25年2月4日～平成25年3月3日：4週間分)

No	疾　患　名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾　患　名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	12,680	27.57	12.91	→	10	百日咳	11	0.04	0.06	↗
2	RSウイルス感染症	161	0.56	0.64	↘	11	ヘルパンギーナ	2	0.01	0.02	
3	咽頭結膜熱	102	0.35	0.39	↘	12	流行性耳下腺炎	38	0.13	0.61	↘
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	422	1.47	1.88	→	13	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.03	
5	感染性胃腸炎	2,312	8.03	10.78	↘	14	流行性角結膜炎	37	0.49	0.76	↘
6	水痘	306	1.06	1.32	↘	15	細菌性髄膜炎	3	0.04	0.01	
7	手足口病	50	0.17	0.33	→	16	無菌性髄膜炎	2	0.02	0.02	
8	伝染性紅斑	15	0.05	0.15	↘	17	マイコプラズマ肺炎	7	0.08	0.23	
9	突発性発しん	119	0.41	0.49	↘	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

（2） 定点把握（月報）五類感染症

平成25年2月分（2月1日～2月28日）

No	疾　患　名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾　患　名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	47	2.14	2.10	↘	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	91	4.33	5.53	↘
20	性器ヘルペスウイルス感染症	10	0.45	0.74	↘	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	9	0.43	1.36	
21	尖圭コンジローマ	18	0.82	0.51	↗	25	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0.00	－	
22	淋菌感染症	16	0.73	0.83	↗	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.05	0.08	

※「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り）
※ 報告数が少数（10件程度）の場合は発生記号は記載していません。
※ 薬剤耐性アシネトバクター感染症は，平成23年2月1日から届出対象となったため，過去5年平均データはありません。

急増減疾患！！（前月比2倍以上増減）

●急増減疾患　な し

発生記号（前月と比較）

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増　減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症（週報対象18疾患，月報対象8疾患）について，県内177の定点医療機関からの報告を集計し，作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13，14	19～22	15～18，23～26	
定点数	43	72	19	22	21	177

2　一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾　患　名　（管轄保健所）
一　　類	0	発生なし
二　　類	41	結核(41)〔西部保健所(9)，西部東保健所(4)，東部保健所(7)，北部保健所(2)，広島市保健所(10)，呉市保健所(5)，福山市保健所(4)〕
三　　類	0	発生なし
四　　類	2	つつが虫病(1)〔東部保健所〕，レジオネラ症(1)〔東部保健所〕
五類全数	9	急性脳炎(1)〔北部保健所〕，後天性免疫不全症候群(4)〔広島市保健所(3)，呉市保健所(1)〕，梅毒(1)〔呉市保健所〕，風しん(3)〔広島市保健所(2)，福山市保健所(1)〕

3　一般情報

（1）　マダニが媒介する感染症について

マダニが媒介する感染症には，平成25年2月18日に県内で初となる患者が確認された重症熱性血小板減少症候群（SFTS）や昨年，県内で25件の報告があった日本紅斑熱，同じようにダニの仲間であるツツガムシによって媒介されるつつが虫病などがあります。

SFTSウイルスや日本紅斑熱リケッチアなどを保有しているマダニは，限られていると考えられていますが，これから暖かくなる春から秋にかけて，マダニの活動が盛んとなってくることから，感染を予防する対策が必要となってきます。

これらの感染症を予防するためには，**マダニに咬まれないようにすることが重要**となります。

農作業，レジャーや庭仕事など屋外で活動する際には，次の点に注意してください。

- **長袖，長ズボンなどを着用して皮膚の露出を避け，ズボンやシャツの裾などを入れ込んでマダニの入り込みを防ぎましょう。長靴を履くのも効果があります。**
- **屋外活動の後は，体や服を叩き，マダニに刺されていないか確認しましょう。**
- **帰宅後は，すぐに入浴して体をよく洗い，脱いだ衣服は放置せずにすぐ洗濯するか，ナイロン袋等に入れて口をしばっておきましょう。**
  ※　マダニは，体にとりついてすぐに刺すのではなく，体のやわらかい部位をさがして刺す習性があります。
- **吸血中のマダニを見つけた場合は，できるだけ医療機関で処置しましょう。**
  ※　マダニは，体部をつまんで引っ張ると口器がちぎれて皮内に残ってしまうことがあるため，口器を残さない方法でマダニを除去する必要があります。
- **屋外活動の後，６日～２週間後に発熱や消化器症状（食欲低下，嘔気，嘔吐，下痢，腹痛）の症状が出た場合は，念のために医療機関を受診しましょう。**

なお，詳しい情報は，こちらのホームページをご覧ください。

○　広島県ホームページ「マダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の予防方法，相談窓口について」
http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/57/sfts-yobou.html

○　広島県感染症情報センターホームページ「日本紅斑熱について」
http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hec/hidsc-kansen-wadai-nihon-kouhannetu.html

○　広島県感染症情報センターホームページ「つつが虫病について」
http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hec/hidsc-kansen-wadai-tutugamushi.html

（2）　風しんについて

風しんは「三日はしか」とも呼ばれ，風しんの症状は子どもでは比較的軽いですが，まれに脳炎，血小板減少性紫斑病等の合併症が2，000人から5，000人に1人くらいの割合で発生することがあります。

また，**妊娠（特に胎児の器官形成が体内で行われている妊娠初期）した女性が，風しんに対する抗体を持っていないまま，初感染で風しんウイルスに罹患すると，胎児に先天異常をもたらすことがあります。これらの障害を先天性風しん症候群といいます。**低出生体重のほか，白内障，難聴，心奇形（動脈管開存症，心室中隔欠損症，肺動脈狭窄症など），中枢神経障害（精神発達遅延，脳性麻痺，小頭症等）など永久障害を残すものと，血小板減少性紫斑病，肝脾腫，肝炎，溶血性貧血など生後一過性に認められるものがあります。

昨年，広島県での流行はみられませんでしたが，全国の風しん報告数は2，353件（暫定値）と過去5年間で最も多い報告数となり，また，先天性風しん症候群の報告数も5件（暫定値）と平成16年に次ぐ多さとなりました。

また，平成25年の全国の風しん報告数も第7週（2月11日～17日）までに745件となり，平成24年の同時期と比較し，約20倍となっており，特に関東地方において報告数が急増しています。

風しん報告数の増加傾向は数年持続することが知られており，今年も風しんや先天性風しん症候群の増加傾向が持続することが懸念されており，流行地域へ行かれる時は注意が必要です。

- 風しんの予防に最も有効な方法は，予防接種を受けることです。市町の実施する定期予防接種の対象者は早めに予防接種を受けましょう。
- **これまで風しんに罹っていなかったり，予防接種をしていない女性の方で，これから妊娠する可能性のある方は，将来の妊娠に備え，任意での予防接種を受けることをお勧めします。**